



協議体事務局だより

第 3 号

令和 4 年 6 月 1 日発行



～第 1 層協議体が開催されました～

- ・ 令和4年3月28日(月) 14:00～
- ・ 伊勢崎市役所東館5階第1会議室

第5回 第1層協議体



伊 勢 崎 市

社会福祉法人伊勢崎市社会福祉協議会



令和4年3月28日(月)に第5回 第1層協議体が開催されました。昨年度はコロナで中止となり、2年振りにメンバーが集まりました。今回は第2層協議体代表(各1名)、区長会・民児協・市老連・伊勢崎ボラ協各会長、市包括・社協の他に第2層SCも参加しての情報交換を主とした話し合いとなりました。協議体の概要や発足の経過、第1層の活動について説明の後、第2層SCが担当地区の活動内容等を説明しました。それを受けての参加メンバーの感想や意見をいくつか紹介します。

【移動支援・買い物支援】

- ・ 移動支援のきっかけとなる買い物ツアーをやってみようという話し合っている。
- ・ とくし丸販売エリアの空白地帯があり、来てほしいという希望を取りまとめた。

【居場所や地域のつながり】

- ・ 地域のつながりに目を向けていこうと話し合っている。ベジ仲間の菜園や屋外での居場所など。
- ・ 協議体の認知度が上がれば協力者も増えるのではと思っている。とくし丸のコミュニティは成程と思った。

SCが交代となりました

人事異動に伴い1層SC及び2層殖蓮地区SCが変わりましたのでご挨拶をさせていただきます。

【退任挨拶】 異動に伴い第1層SCを退任しました岡田です。協議体発足前の勉強会から多くの皆様とお会いしお話ができたことは、私の大切な「宝」となっています。今後も地域の支え合い活動に、お力添えをお願い致します。

【就任挨拶】 今年度より第1層SCとなりました渡辺と申します。様々な地域活動が動き出しつつある中、第2層のバックアップ等、本来の役割を果たせるような第1層にしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【就任挨拶】 今年度より殖蓮地区SCとなりました夏目と申します。未熟者ですが、地域の皆様と同じ目線で取り組み、殖蓮地区がより一層素敵な場所となるよう一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

～名和地区協議体メンバーが研修会に参加しました！～



ZOOMを使ったオンライン研修会の様子

5月20日(金)、名和地区 SC と協議体プロジェクト会議のメンバーが、全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)主催の研修会に、市社会福祉会館4階の会議室から ZOOM を使ってオンラインで参加しました。

「オンライン de 地域のお宝発表会」と題したこの研修会は、日頃から地域住民同士でおこなわれている当たり前で身近な「支え合い」を「**地域のお宝**」と題し、その価値に気づき意味づけをする事で、生活支援体制の整備につなげていこうという考え方のもと、SC や協議体メンバーの学びの場として開催されたものです。



* * * * *

名和地区協議体では、平成30年に「困りごとに関するアンケート調査」を実施、その後は課題の分析や解決に向けた話し合いを行ってきましたが、コロナ禍で町内行事等がストップしてしまったことなどをきっかけに、『数値化できない、既存の住民同士の繋がりに着目する＝**地域のお宝探し**』に取り組んで来た経緯があります

そのため今回、協議体メンバーの理解を深めることを目的に、この研修会へ参加する事となりました。

研修会では、東北福祉大学の高橋誠一教授による基調講演の後、北海道・宮城県・沖縄県から、地域のお宝3事例の発表が行われ、参加者同士での意見交換・グループ発表などを通し、「**地域のつながり(お宝)**を見つける視点」などについて学びました。

～参加した名和地区協議体メンバーの感想～

【菊川良一さん】「楽しいから続けられる」という事が大切。そういう繋がりが人の輪を広げ、支え合いにも繋がって行くと改めて感じました。

【篠崎孝雄さん】今までは「何かしよう」と構えていましたが、支え合いは日常生活の延長で、地域の様々な情報をキャッチすることが大切だと思いました。

【渡辺愛子さん】男性が、大工仕事などの「得意なこと」を通じ繋がっている事例がとても良いと思いました。

【澁澤 SC】難しい課題に取り組む事より、やさしい事からはじめる事が大切だと思いました。最後に他の協議体の皆様の参考にもなると思いますので、研修で学んだ素敵な言葉をご紹介します。

～4つ合わせて幸せな地域づくり～自分たち流で楽しもう！/あるものに目を向けよう！/出来る事からやってみよう！/お互い様を育てよう！

* * * * *

※この研修会の動画は、アーカイブで6月末まで視聴可能となっております。興味のある方は各地区 SC までご連絡ください。



研修に参加した名和地区協議体メンバー
左から菊川さん・篠崎さん・渡辺さん・澁澤 SC

令和4年度 共同募金配分金新規事業



～協議体と関連する助成事業について(お知らせ)～

コロナ禍により戸外サービス事業等が中止となったことをきっかけに、従来からの事業を見直したうえで、地域の支え合い活動推進を重点的に支援するため、協議体との連携・協働による事業に組替し新たな助成事業を開始することになりました。

共同募金を財源とした新たな助成事業

①「地域支え合い活動モデル事業」助成金

目的 ・ごみ出し等の支え合い活動を推進し、ひとり暮らしになっても安心して暮らしていけるようモデル地区を決め支援していく
・支え合い活動の取り組みを始めている(これから始める)行政区等への支援

内容 ①対象:協議体でモデル地区に指定された行政区等の地域等
②予算:1か所 50,000 円×22 モデル地区(2 か所×11 協議体)
=1,100,000 円 (2年連続の申請まで可能)

②「地域活動新設団体等」助成金

目的 ・新しい地域福祉の活動の立上げを支援し、取り組みの継続を図る

内容 ①対象:本年度新たに地域福祉活動の取り組みを始めた団体等
②予算:1団体につき 50,000 円×6 団体(事業)=300,000 円
(新設団体等に対し単年度のみ助成)
(過去)R3 伊勢崎市防災と福祉を考える会、みんなの家 かがやんち
R1 親子支援グループ「てとてと」(親子サロン)
H30 あすでこ凸(障害児サロン)、いせさきがん哲学外来カフェ

③「空き家等支え合い拠点づくり事業」助成金

目的 ・協議体と連携し、空き家や以前店舗等で使っていた空スペースを活用した居場所を広げる
・地域の支え合い活動の拠点となる住宅の改修・修繕・備品購入等を支援し拠点を広げる

内容 ①対象:支え合いの拠点として活用する空き家・空スペース等
※地域福祉に取り組む当事者組織・地域団体・居場所の運営者等
②予算:1か所 300,000 円×3 か所=900,000 円(単年度のみ助成)
③対象経費(例示):住宅改修・修繕(トイレ・スロープ・手すり等)
備品整備(冷暖房設備・棚・机・いす・健康器具等)

④「見守り活動支援事業」助成金（ふれあいの居場所への運営費助成）

- 目的** ・ふれあいの居場所の活動に見守りの視点を少しずつ働きかける
・居場所での交流から「信頼関係」→「気かけ合い」→「見守り」→「支え合い」へと関係性が深まり、お互いが助け合える地域を目指す
・運営費（例）休止中の手紙や電話、通知を回覧する等つながりを継続 ⇒ 気かけ合う「見守り」活動につながる

- 内容** ①対象：伊勢崎市ふれあいの居場所づくり事業の補助金交付を受けて運営している「ふれあいの居場所」
②予算：1か所 年間 12,000 円×90 か所＝1,080,000 円（毎年度申請）
※新規立ち上げの場合、月額1,000円×事業開始から年度末3月までの月数

●各助成金の申請方法

①「地域支え合い活動モデル事業」助成金

→各第2層協議体での周知と協議を経て、申請を受付けていきます。

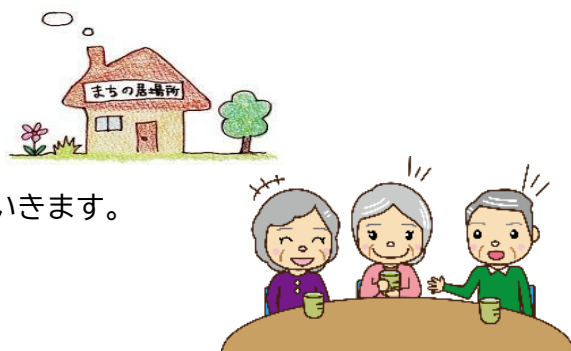
②「地域活動新設団体等」助成金

③「空き家等支え合い拠点づくり事業」助成金

→広報紙「社協いせさきかがやき」R4.7/16号で周知し、申請を受付けます。

④「見守り活動支援事業」助成金

→ふれあいの居場所づくり補助金の交付を受けている団体へ申請様式を郵送し申請を受付けています。



* * * * *

あしがき

令和4年度を迎え未だにマスクをしている姿に「こんなはずじゃなかった」と想うのは皆さんも同じかと思えます。警戒度が1となり、ここからが協議体活動のリスタート。地域での支え合い助け合いをまた一緒に考えていきましょう。

集まることや人との交流など、規制がある中で多くの人々は改めて集まり触れ合うことの大切さを感じたことと思います。集まって、言葉はなくても同じ時間、場を共有することで共感や信頼感を醸成し人と人との関係を身近なものにしてくれる温かな地域づくりをしていきたいと思えます。

「協議体」は多様な人の集まりです。ひょっとすると協議体も一つの居場所？なのかもしれませんね。

